

サボテンクイズを開催!

A 咲いた花の数は **56** 輪 (2023年5~12月)

広報にっしん3月のにぎわい交流館の紹介記事に8ヶ月の間にサボテンがいくつ咲いたかクイズを掲載しました。正解者の方はサボテンの子株をGET! 笑顔を見せてくださいました。にぎわい交流館のシンボルフラワーとなりつつあるサボテンは、毎年、春から初冬にかけてたくさんの花を咲かせます。一日限りの可憐な花は、訪れる人たちに幸せを分けてくれる、ハッピーフラワーです。ぜひご覧ください。



にぎわい交流館のSNSをフォローして最新情報をGET

LINE 公式アカウント Instagram facebook



写真付きで情報発信しています

ワンデイシェフ

11:30頃~

喫茶 喫茶の提供がない場合もございます。

※2024年3月1日現在。新年度から変更になる場合がございます。ご了承ください。

第1 木曜日 花菜豆

伝統和食の温かさと中医薬膳の奥深さをお膳で



第2 木曜日 日進 LOVE ラボ 星のたね

みんなの「あったらいいな」をカタチにしてい



第1 金曜日 オールフォーユー

旬の食材を使った家庭的でボリュームなランチ



土曜日 名古屋学芸大学 Canteen

管理栄養学部の学生が作るランチ



第2 日曜日 日進絆子ども食堂

地域の子どもたちと大人たちの居場所



ワンデイシェフ募集中! あなたもシェフになってみませんか? 詳しくはにぎわい交流館まで。

マーケット・ギャラリー

※2024年3月1日現在。新年度から変更になる場合がございます。ご了承ください。

手作りの品・こだわりの逸品がお買い得!

マーケット 10:00~16:00

(時間は出店者により異なる場合があります)

- 第1・2・4・5火 スマイルハウス
- 第3水・第2木 薔薇しかない花屋 Neo
- 第2木 手作りサークル PiPPi・日進 LOVE ラボ

市民のみなさんの力作を見に来て!

ギャラリー 8:30~20:00

(最終日は15:00まで)

- 4/2(火)~4/15(月) 柴原薫「柴原薫静物写真展 13」
- 4/16(火)~4/29(月) にっしん地域猫の会「飼い猫もノラ猫も」
- 5/2(木)~5/15(水) 花散里「シルバー写真同好会」

日進市にぎわい交流館

開館時間 サロン 8:30~20:00/ 会議室 9:00~20:30

休館日 年末年始(12月28日~1月4日)

〒470-0122 愛知県日進市蟹甲町中島277-1



電話 **0561-75-6650**

ファクス 0561-73-5810

電子メール nigiwai@me.ccnw.ne.jp

ウェブサイト <https://shimin-kouryu.net>



にぎわい NEWS Vol.27 2024年



日進市にぎわい交流館
公式キャラクター
「わいわい」



【特集】市民活動団体インタビュー
にっしん市民環境ネット
「2024年の子どもたちへ。」

Contents

- 【特集】市民活動団体インタビュー
- にぎわい掲示板
- ワンデイシェフ・マーケット・ギャラリー

にっしん市民環境ネットとは

にっしん市民環境ネット(通称にしかね)は、2004年の第1次日進市環境基本計画の策定委員がその計画の推進を目的に立ち上がったNPOだ。計画の策定をしている時から、そこに関わる市民グループは「にっしん市民環境ネット」と呼ばれ、策定後もその名前を引き継いだ。

計画策定に関わった全ての委員が所属したわけではないが、主婦や会社員、行政職員や大学の教授などさまざまな立場の人が、一時は70人ほど所属する大所帯となり、法人化した。立ち上がった当時は、行政と市民が同じ目標に向かって一緒に取り組む「協働」が今よりも活発だったという。行政と力を合わせて、自分たちで日進を良くしていくんだという希望に溢れていた。

そんな「にしかね」が立ち上げ当初から掲げてきたスローガンが「2024年の子どもたちへ」。

にしかねにとって重要な年である今年、その活動の意義や今後について取材した。



■ 想いを形にしたプロジェクトの数々

にしかねは、2004年の団体設立当時から「2024年の子どもたちへ」というスローガンを掲げて活動してきた。2024年は第1次環境基本計画の最終年。計画策定時にはまだ生まれていない子どもたちに、誇りと愛着を持てる環境のまちを手渡したいという願いを表しているという。

「水」「緑」「まち」「ライフスタイル」「コミュニティ」「遊びと学び」の6つのテーマに沿った15のプロジェクトに取り組んだが、そのうちの1つが「おまかせエコ共育プロジェクト」だ。子どもの環境感度を上げたい、子どもなりの課題を見つけて一緒に解決してほしいと、地域の子ども会に出向いて子どもたちと一緒に小枝えんぴつなどを作った。

小枝えんぴつは、小枝にドリルで穴をあけ、そこに鉛筆工場からもってきた廃棄予定の芯を入れて作る。ホームセンターで売っている木材ではなく、子どもが身近な場所で自分でも見つけて拾ってこられるような小枝を使う。自分のまちで自分の手で拾えるものを使うことで、身の回りの自然に親しみ、その不思議さを楽しみ、目に見えるものも見えないものも感じ取ることができるようになってほしいと考えたからだ。

また、自然と共生した昔ながらの暮らしを体験する「にっしんのんびり村プロジェクト」では、米野木町南山の里山をフィールドとし、農業体験をしたり日進に伝わる伝承料理を、昔から日進に住む人に教わって作ったりした。メンバーの一人は「やきいもを焼いたり、落ち葉プールで遊んだりもしたよ。子どもはとにかく焚火が大好き。大人公認の火遊びだものね。あとは、マムシを食べたりもしたよ。みんなおそろおそろ食べてた」と、当時を振り返る。



○ゆのゆの
法人設立 10 周年記念誌
(平成 26 年)

○ゆの
第1次環境基本計画の
概要版(平成 16 年)

■ 活動の意味とは

「2024年の子どもたちへ」を当初のテーマとしていたが、2024年になったら、団体はどうするのか。立ち上げ当初から関わっているメンバーに聞くとこんな答えが返ってきた。

「消息が分かっている人にはとにかく声をかけて締めくくりの総括をしたいと思っている。大同窓会みたいな。そこでこれからどうする?という話をしたい」。

締めくくるという言葉には寂しさを感じるが、一方でこんな話もしてくれた。

「にしかねという名前が残るかかわからないけど、例えば農育プロジェクトはなくならないと思う。若い人が「米部(こめぶ)」というのを立ち上げてやってくれている」。20年の中でまいた種が芽を出し、確実に育ってきているようだ。

第1次環境基本計画を推進する、という目標は達成できたのかということには課題も残る。日進市が毎年作成している環境基本計画年次報告書に示されている分野別計画の成果指標は、20年経った今、一つの項目も達成できていない。

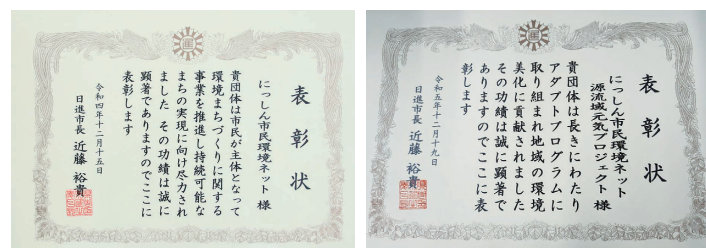
「もう諦めようかなと思うときもあるけどやっぱり諦められない。どうすればいいかというはっきりした答えはないけれど、こんな草の根の活動でも、続けたいと思える。止めたら一気に望まない方向へ進むような気がするから」。

その言葉には今の世の中に対する危機感が滲み出ているが、こんな話もしてくれた。

「でもね、なんでそんな大変なことをしてこられたの?って考えたら、結局楽しいからなんだよね。子どもが笑ってるとか、自然のなかでつながってるみたいな楽しさが点々とあって。」

市民活動をしているという、ちょっと変わった特別な人と思われることも少なくないが、その根底にあるのは「自分たちの暮らしを良くしたい」「大切な仲間とおもしろいことをしたい」という、とてもシンプルな願いなのだ、改めて感じた。

(取材・文 黒田)



○日進市からの表彰状



現場にオジャマしました! /

「農育プロジェクト」

今でも活発に動いている活動の一つ。環境に優しい農業を進め、農業が身近にある生活を広めることをめざしたプロジェクトだ。農業の実践の場として、折戸の休耕田と笠寺山の畑で実施している。

今回は、笠寺山にある畑、「ラッキーファーム」へ。この日は「収穫祭」が行われていた。



●畑で採れた野菜で豚汁をつくる。子どもたちの仕事ぶりが頼もしい。



●季節は師走。田んぼで取れた稲わらを使ったしめ縄作りも。



●走り回る子どもの姿が眩しい。あたたかいコミュニティができていた。



70代の元大学教授と子どもの鬼ごっこ↑



●表情からおいしさが伝わってくる。



今でこそ若い人の姿も多く見られるが、プロジェクトが立ち上がったから15年ほどは、大きく注目されることもなく淡々と続けていたのだとか。それが、ある時から爆発的に注目を浴びようになる。コツコツと続けた年月が報われた瞬間だった。まちづくりも人育ても、すぐに結果が出ることはほとんどない。今やっていることが本当に正しいのか疑いたくなることもたくさんある。それでも信じて、続けた人だけが達成できることがあるのだと気づかせてもらった。

R6年1月28日(日) にっしん環境フォーラムが開催されました。

参加した
メンバーの
感想

環境フォーラムには、これまで日進市の環境まちづくりに参加してきた各団体のメンバーや、この2年市民として環境課題解決に取り組もうと話し合いをしてきた「リビングラボ」のメンバーが集結!これからスタートする市の計画の説明の後、リビングラボで生まれた3つのグループの力のこもった熱い実践発表がありました。第2部のワークショップ

ではダンボールで作ったテーブルをお互いのひざに置いて、個人で抱えている環境活動の案を、よりよくするためのアイデアを出し合いました。まち探検に参加した小学生からもどんだん活動PR案が出てきて感動!まさに、未来への種まきの場になっていると感じました。2030年の子どもたちへ、ひとりひとりが環境まちづくりに関わりたいですね!

